「本年、『播磨風土記』1300年」

県立加古川北高等学校が所在する加古川市近隣には、とても良い所で自慢できるところがいっぱいです。その中でも、選りすぐりのものを皆様方に情報発信したいと思っています。今回は、記念すべき『播磨風土記』成立から1300年に関する情報をお知らせします。

地名ほど奥深いものはありません。地名は、その土地ごとに付けられていますが、長い歴史の中で変容したり、消滅したりしながら現在のわれわれに受け継がれてきています。そう思うと、大切にしなければならないと痛感します。

平成の大合併では、3,232市町村(1999年)から1,727市町村(2010年)に約半減する大規模な変化がありました。兵庫県でも少し前（1990年）までは93市町あったのが現在は41市町となっています。東播磨地区では、変化はありませんでしたが、近隣では家島町・香寺町・安富町・夢前町と姫路市が、三木市と吉川町が合併されました。

さて、『播磨国風土記』にしかない地名賀古郡鴨波里（あはは）は、古代の歴史の中で消えていった地名の一つです。ちなみに『播磨国風土記』は、‘風土記’の内現存するものは５つしかなく、『播磨国風土記』の写本は国宝に指定されています。その中で大帯日子命（おおたらしひこのみこと）（12代景行天皇）と印南別嬢（いなびのおおいらつめ）（播磨稲日大郎姫）の求婚説話は有名です。二人の間に生まれたのが、あの有名な日本武尊（やまとたけるのみこと）です。

『播磨国風土記』の中の「賀古郡」にある４つの里は、「鴨波里」「望理（まがり）里」「長田（ながた）里」「驛家（うまや）里」です。10世紀の『和名抄』の「賀古郡」では、「あはは」の名称はなくなります。それでは、「あははの里」はどのあたりを指すかというと、住吉神社の分布と『住吉大社神代記』の記述を参考にして、東は明石市二見町、西は加古川市野口町、北は加古川市平岡町土山から稲美町六分一あたりではなかろうかと、故田井恭一氏は結論づけられています。加古川は歴史的にみてもすばらしいところだということをつくづく感じた次第です。

これから、「加古北」周辺のすばらしい情報を発信していきたいと思いますので、県立加古川北高等学校同様よろしくお願いします。

ぶらり加古川創刊号　平成27年4月